

宮城県商工会 地区中小企業景況調査報告書

平成24年7月～9月期

目 次

1. 県下産業全体の景況	2
(1) 主要景況項目のあらまし	2
(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし	3
(3) 今後の見通しについて	4
2. 県下産業別の景況	5
(1) 製造業の動向	5
(2) 建設業の動向	8
(3) 小売業の動向	11
(4) サービス業の動向	14

平成24年10月

宮城県商工会連合会

中小企業景況調査報告書

平成 24 年 7 月～9 月期

[調査要領]

1. 調査対象

- (1) 対象地区 宮城県内 10 商工会地区
(調査対象商工会名) 名取市、大河原町、みやぎ仙台、利府松島、加美、遠田、若柳金成、みやぎ北上、石巻かほく、本吉唐桑
- (2) 対象企業数 150 企業
- (3) 回答企業数 150 企業

2. 調査対象期間

平成 24 年 7 月～9 月期を対象として、調査時点は平成 24 年 9 月 1 日とした。

3. 調査方法

- (1) 商工会の経営指導員による訪問面接調査。
- (2) 対象企業の抽出は、商工会に於いて、業種・規模等有意選定。

4. 回答企業内訳

業 種	企 業 数
製 造 業	3 4
建 設 業	2 4
小 売 業	4 3
サービス業	4 9
合 計	1 5 0

5. そ の 他

本報告書中の D I とは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合と減少(低下・悪化)企業割合の差を示すものである。

1. 県下産業全体の景況

県下商工会地区における今期(平成 24 年 7 月～9 月)の調査において、産業全体の業況D Iは、前期より 11.2 ポイント低下し Δ 21.5 (前期 Δ 10.3) となり、東日本大震災からの復興基調が踊り場を迎えつつあるようにも窺えた。

建設業は、全国的には民間・公共事業ともに好転の兆しがみられ完成工事D Iを 1.8 ポイント改善させたが、本県の完成工事D Iは前期比 33.4 ポイント悪化し全国値を大幅に上回っていた乖離幅が 83.0 ポイントから 47.8 ポイントへと縮小した。

製造業は円高や海外景気の減速により輸出を中心に停滞傾向にあるが、本県の製造業は復興需要等に支えられ売上D Iを Δ 5.8 とし全国値を 17.4 ポイント上回った。

小売業は、猛暑の影響や、秋冬物の不振により全国的に厳しさを増す中、本県は復興特需の反動もあってか売上D Iを 39.5 ポイント悪化させた。

本県のサービス業は、観光地の復興の遅れや、被災地視察需要の一巡などから売上D Iを 28.6 ポイント悪化させた。

今期は各産業ともに大幅に売上額D Iを悪化させており、製造業・建設業の売上額(完成工事額) D Iは全国値を上回ったものの乖離幅は狭まった。

(1) 主要景況項目のあらまし

① 売上額(完成工事額)の状況

売上額(完成工事額) D Iは、製造業においては 17.5 ポイント、建設業は 33.4 ポイント、小売業が 39.5 ポイント、サービス業は 28.6 ポイントと全産業で悪化し、全産業D Iとしては Δ 20.7 (前期 9.3) と 30.0 ポイント悪化した。

② 採算の状況

採算D Iは、製造業において 14.3 ポイント、小売業は 13.4 ポイント、建設業が 4.2 ポイント悪化したが、サービス業は 0.7 ポイント改善し、全産業D Iとしては Δ 25.3 (前期 Δ 17.7) と 7.6 ポイント悪化した。

③ 設備投資の状況

新規投資の実施比率は、小売業は 16.3%で 9.3 ポイント、製造業は 20.6%で前期と比較し 5.9 ポイント増加した。建設業は 16.7%で前期と比較し 12.5 ポイント減少し、サービス業は 20.4%で前期同様だった。

(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし

① 売上額（完成工事額）

売上額（完成工事額）D I は、製造業・建設業は宮城が東北を上回り、東北が全国を上回る形となり、小売業・サービス業は東北が全国を上回り、全国が宮城を上回る形となった。

好調さを維持していた宮城の建設業は 37.5（前期 70.9）と 33.4 ポイント悪化し、全国との乖離幅が 47.8 ポイントに縮小した。宮城の小売業も△46.4（前期△6.9）となり 39.5 ポイント悪化し、全国から 2.2 ポイント下回り、宮城のサービス業も△36.8（前期△8.2）と 28.6 ポイント悪化し全国から 9.6 ポイント下回った。

表一 売上額（完成工事額）の状況（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 14.9	△ 23.2	△ 9.1	△ 20.8	11.7	△ 5.8
建 設 業	△ 12.1	△ 10.3	17.4	13.9	70.9	37.5
小 売 業	△ 37.6	△ 44.2	△ 20.9	△ 30.9	△ 6.9	△ 46.4
サービス業	△ 19.5	△ 27.2	△ 3.3	△ 23.9	△ 8.2	△ 36.8

② 採 算

採算D I は小売業・サービス業は東北が宮城を上回り、宮城が全国を上回る形となり、建設業は宮城が東北を上回り、東北が全国を上回る、そして製造業は東北が全国を上回り、全国が宮城を上回る形になった。

結果として建設業は 42.1 ポイント、小売業は 1.0 ポイント、サービス業は 2.8 ポイント宮城が全国を上回ったが、製造業は 6.5 ポイント全国を下回った。

表二 採算の状況（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 23.0	△ 25.9	△ 21.4	△ 25.1	△ 18.1	△ 32.4
建 設 業	△ 26.4	△ 25.4	△ 6.0	△ 9.3	20.9	16.7
小 売 業	△ 39.3	△ 40.5	△ 30.5	△ 33.0	△ 26.1	△ 39.5
サービス業	△ 27.5	△ 31.3	△ 19.2	△ 21.5	△ 29.2	△ 28.5

(3) 今後の見通しについて

① 県下産業全般の主要項目来期見通し

売上額（完成工事額）D I の来期見通しは、11年4—6月期以来プラス値で推移していた建設業においても来期は41.8ポイント悪化し△4.3の予測となり、復興需要による伸びも踊り場を迎えたようである。なお、製造業は5.8ポイント、サービス業は11.8ポイント改善し、小売業は2.5ポイント悪化すると予測された。

採算D I の来期見通しについては製造業が14.7ポイント改善すると予測され、建設業は12.6ポイント、小売業は4.6ポイント、サービス業は0.7ポイント悪化すると予測された。

② 全国と本県企業の来期見通し比較

主要指数において、全国の変動幅は小幅であるのに対し、宮城は変動幅が大きく、特に建設業の売上額（完成工事額）D I は大きく悪化する見通しとなった。

売上額（完成工事額）D I は、小売業を除いた各産業において宮城が全国を上回る見通しとなり、採算D I については、建設業が30.4ポイント、製造業は5.9ポイント宮城が全国を上回り、小売業が6.3ポイント、サービス業は0.7ポイント宮城が全国を下回る予測となった。

表－3 売上額（完成工事額）来期見通し (D I)

区分 業種	全 国		宮 城	
	今 期	来 期	今 期	来 期
製 造 業	△ 23.2	△ 19.0	△ 5.8	0.0
建 設 業	△ 10.3	△ 20.5	37.5	△ 4.3
小 売 業	△ 44.2	△ 43.0	△ 46.4	△ 48.9
サービス業	△ 27.2	△ 28.2	△ 36.8	△ 25.0

表－4 採算来期見通し (D I)

区分 業種	全 国		宮 城	
	今 期	来 期	今 期	来 期
製 造 業	△ 25.9	△ 23.6	△ 32.4	△ 17.7
建 設 業	△ 25.4	△ 26.3	16.7	4.1
小 売 業	△ 40.5	△ 37.8	△ 39.5	△ 44.1
サービス業	△ 31.3	△ 28.5	△ 28.5	△ 29.2

2. 県下産業別の景況

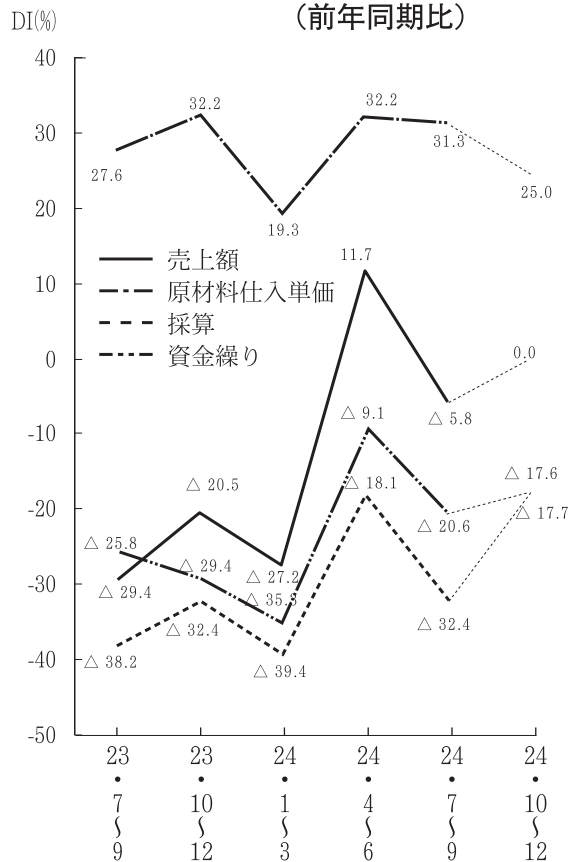
(1) 製造業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

前年同期比D Iは、売上（加工）額D Iが今期△5.8（前期11.7）となり17.5ポイント、採算D Iも今期△32.4（前期△18.1）で14.3ポイント、資金繰りD Iも今期△20.6（前期△9.1）で11.5ポイントと悪化した

原材料仕入単価は31.3（前期32.2）と0.9ポイント改善はしているものの、原材料の高止まりが続いている。

図1-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



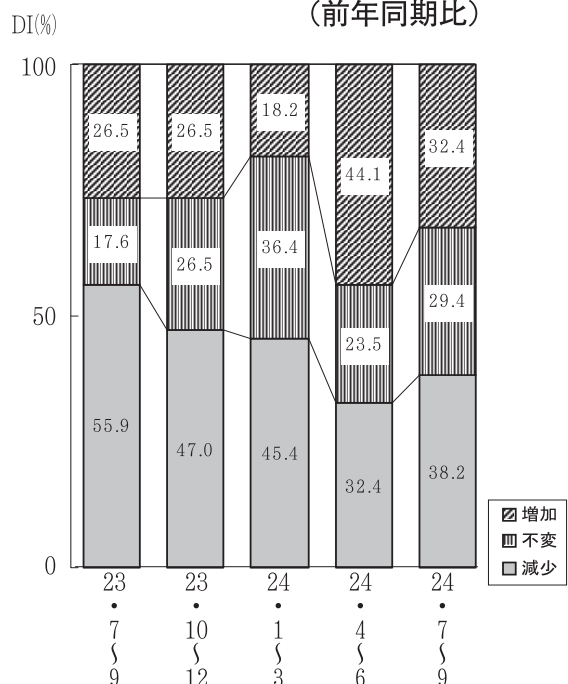
② 主要景況項目別状況

(a) 売上(加工)額

「上昇・好転」と回答した企業は、全体の32.4%（前期44.1%）と11.7ポイント減少し、「減少・悪化」と回答した企業は38.2%（前期32.4%）と5.8ポイント増加した。

結果として売上（加工）額D Iは△5.8（前期11.7）となり前期比17.5ポイント悪化した。

図1-2 売上（加工）額の状況
(前年同期比)

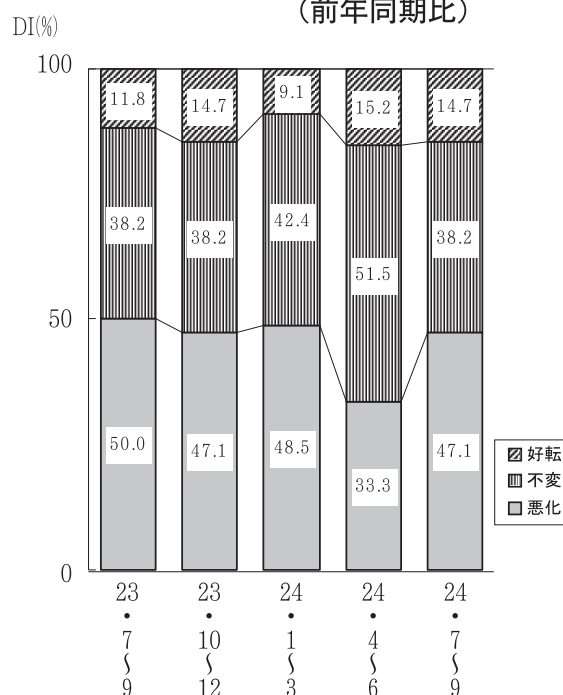


(b) 採 算

「上昇・好転」と回答した企業は全体の14.7%(前期15.2%)で0.5ポイント減少し、「減少・悪化」と回答した企業は47.1%(前期33.3%)で13.8ポイント増加した。

その結果、採算D Iは△32.4(前期△18.1)となり前期比14.3ポイント悪化した。

図1-3 採算の状況
(前年同期比)



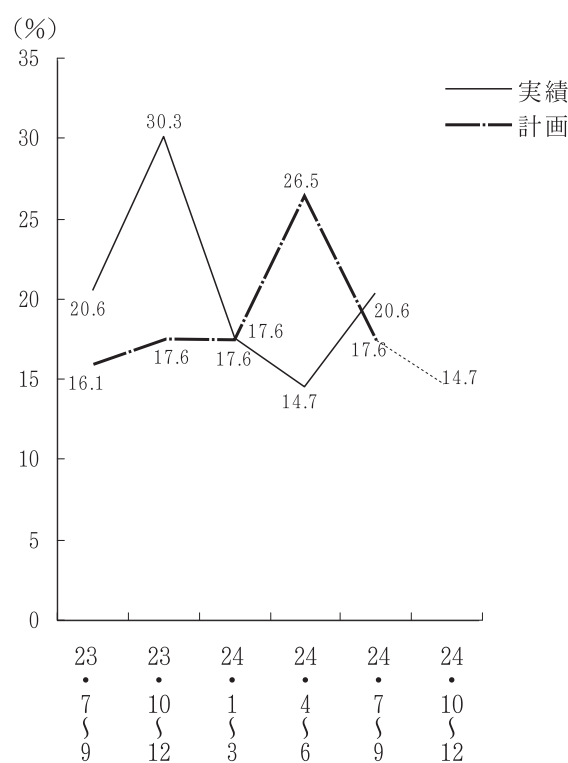
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施企業割合は、全体の20.6%(前期14.7%)で5.9ポイント増加した。

その設備内容は工場建物、生産設備、車両・運搬具、付帯施設、OA機器、その他であった。

来期に設備投資を計画している企業は、全体の14.7%で、その設備内容は土地、工場建物、生産設備、車両・運搬具、OA機器、その他となっている。

図1-4 設備投資の状況

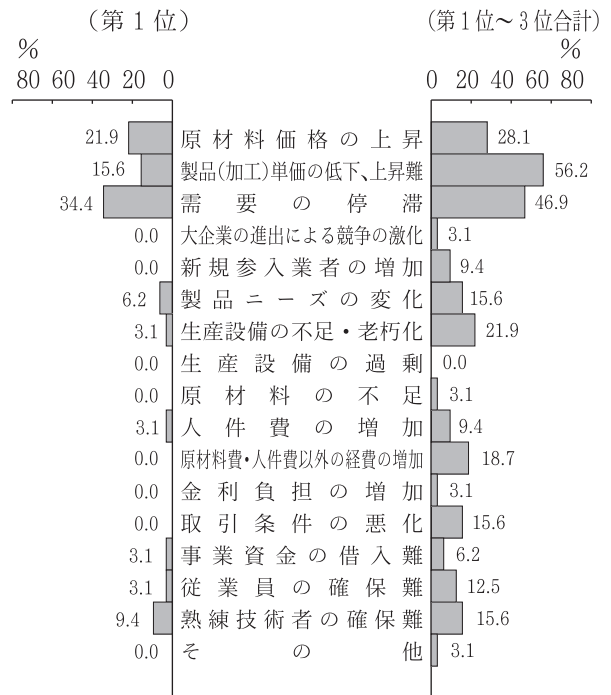


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は、「需要の停滞」(34.4%)、次いで「原材料価格の上昇」(21.9%)、そして「製品(加工)単価の低下、上昇難」(15.6%)と続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「製品(加工)単価の低下、上昇難」(56.2%(複数回答以下同じ))、次いで「需要の停滞」(46.9%)、「原材料価格の上昇」(28.1%)、「生産設備の不足・老朽化」(21.9%)と続いた。

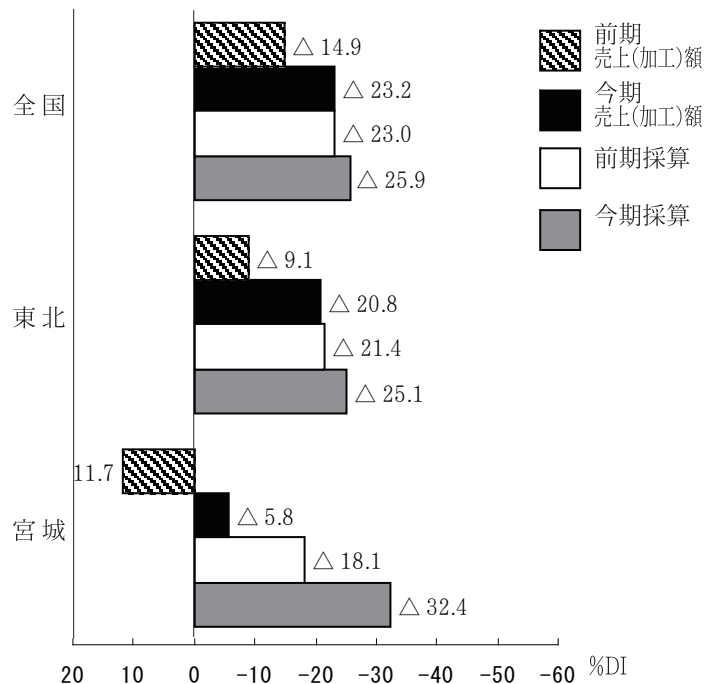
図1-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

全国的には、円高や海外景気の減速により低迷感がみられ、宮城の売上DIは全国を上回っているものの、本県回答事業者からは「震災後の特需もなくなり、前々年並みの売上で横ばい、移転も現実的になり借入金・キャッシュフローに不安感がある」、「3店舗で営業していたが被災し、昨年は1店舗での営業となり、本年は3店舗全店で営業が可能となり、結果として好転しているが実質的に業績が良くなっているわけではない」などのコメントが寄せられた。

図1-6 全国東北宮城売上(加工)額・採算比較



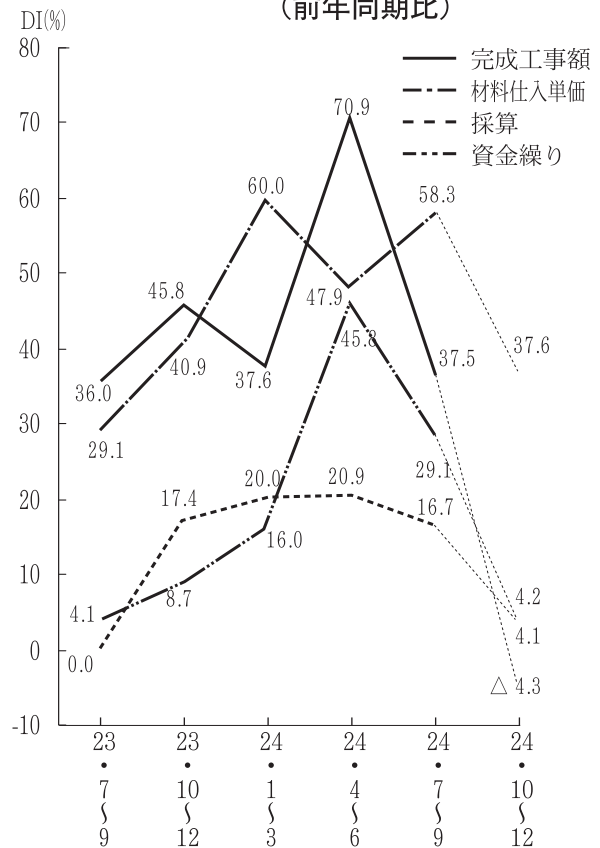
(2) 建設業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

完成工事（請負工事）額DIは37.5（前期70.9）で33.4ポイント悪化し、資金繰りDIも16.7ポイント、採算DIも4.2ポイント悪化した。

懸念されていた材料仕入単価DIも58.3（前期47.9）で10.4ポイント上昇し高止まり感があり、11年4～6月期以来伸び続けていた復興需要の流れに変化の兆しが見られた。

図2-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



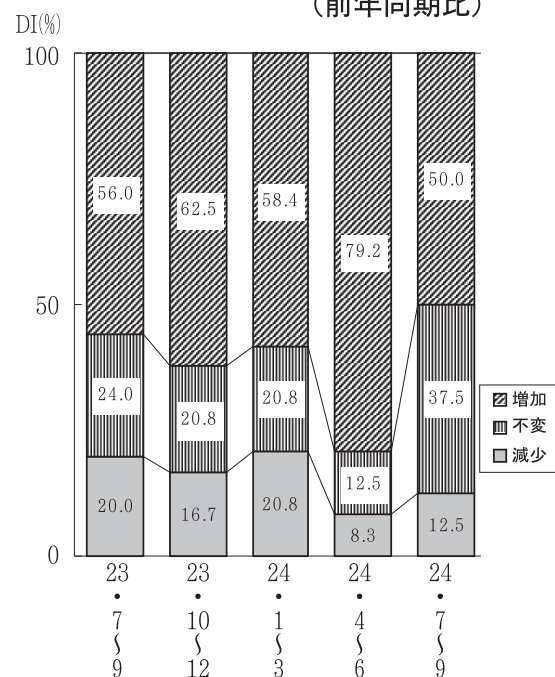
② 主要景況項目別状況

(a) 完成工事（請負工事）額

「上昇・好転」と回答した企業は全体の50.0%（前期79.2%）であり、29.2ポイント減少し、「減少・悪化」と回答した企業は12.5%（前期8.3%）と4.2ポイント増加した。

その結果、完成工事（請負工事）額DIは37.5（前期70.9）と33.4ポイント悪化した。

図2-2 完成工事額の状況
(前年同期比)

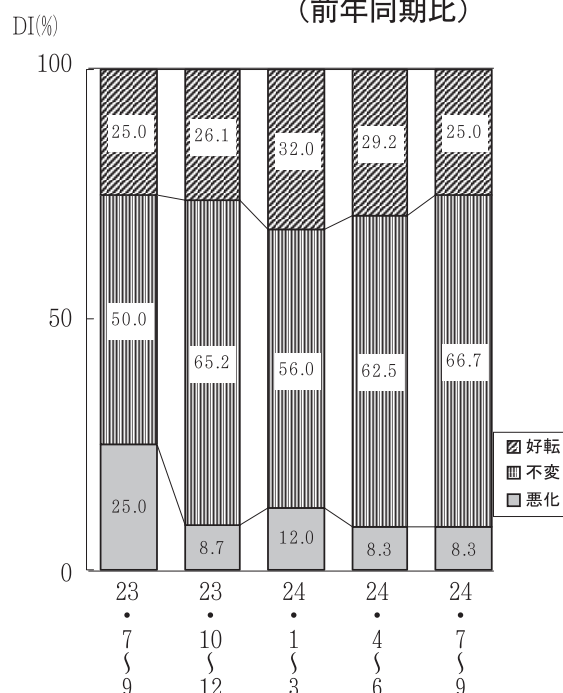


(b) 採 算

「上昇・好転」と回答した企業は全体の25.0%（前期29.2%）であり4.2ポイント減少し、「減少・悪化」と回答した企業は全体の8.3%（前期8.3%）であった。

その結果、採算DIは16.7（前期20.9）となり、前期比4.2ポイント悪化した。

図2-3 採算の状況
（前年同期比）



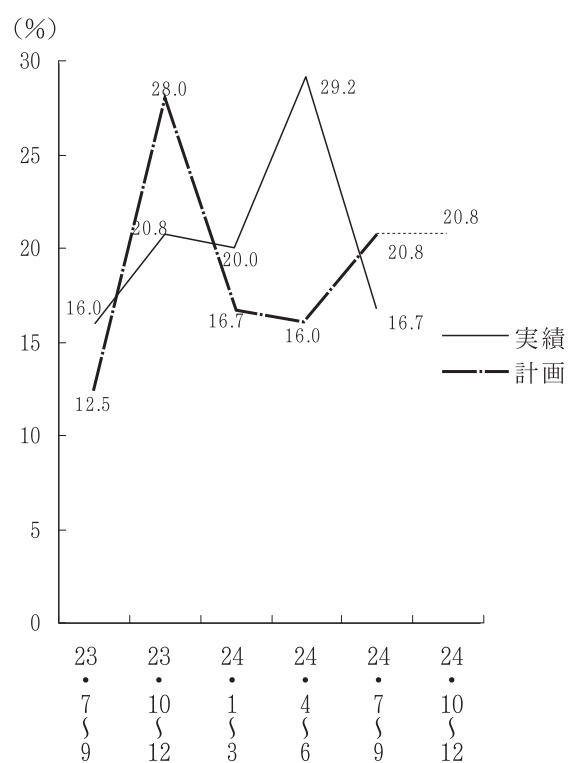
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施企業割合は、全体の16.7%（前期29.2%）で12.5ポイント減少した。

その設備内容は建物、車両・運搬具、付帯施設、OA機器、福利厚生施設、その他であった。

来期に設備投資を計画している企業は、全体の20.8%で、その設備内容は土地、建物、建設機械、車両・運搬具、付帯施設、OA機器となっている。

図2-4 設備投資の状況

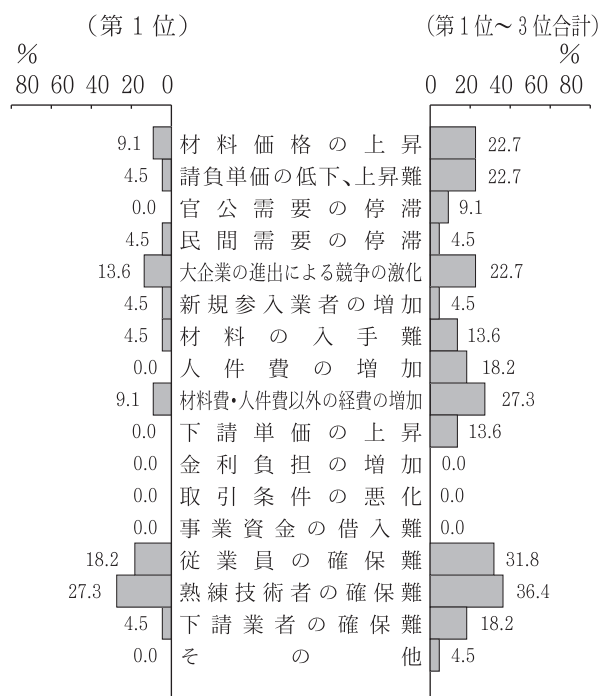


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「熟練技術者の確保難」(27.3%)、次いで「従業員の確保難」(18.2%)、「大企業進出による競争の激化」(13.6%)と続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「熟練技術者の確保難」(36.4%(複数回答以下同じ))、次いで「従業員の確保難」(31.8%)、「材料費・人件費以外の経費の増加」(27.3%)、そして「大企業進出による競争の激化」、「材料価格の上昇」「請負単価の低下、上昇難」が22.7%と同率で続いた。

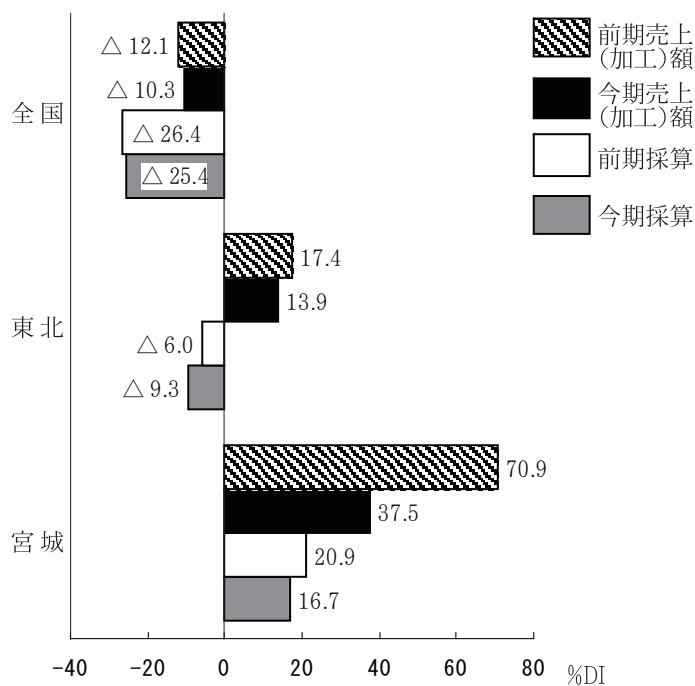
図2-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

宮城は復興需要により売上DI・採算DIともに全国、東北を上回っているが、宮城の復興需要による工事の伸びが止まりつつあり、本県回答事業所からは「現状は震災特需の真只中にあるが、熟練労働者の確保が難しく、資材の値上がりが止まらないため、新規受注には慎重になってしまう」、「震災特需がいつまで続くか不安である」などのコメントが寄せられた。

図2-6 全国東北宮城売上完成工事額・採算比較

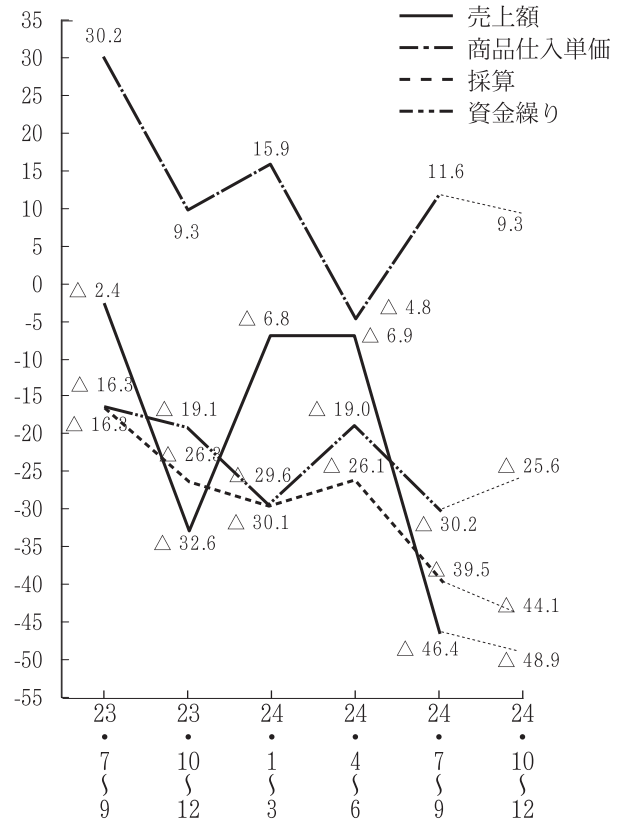


(3) 小売業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上額D Iは△46.4（前期△6.9）と 39.5ポイント、採算D Iも△39.5（前期△26.1）で13.4ポイント、資金繰りD Iは△30.2（前期△19.0）と11.2ポイント悪化した。前期若干改善した商品仕入単価D Iは11.6（前期△4.8）と16.4ポイント上昇し、再び騰勢傾向となった。

図3-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



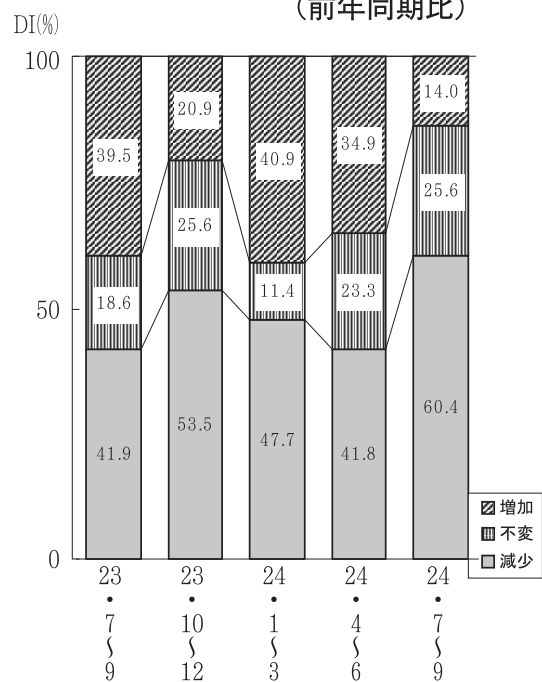
② 主要景況項目別状況

(a) 売上額

「上昇・好転」と回答した企業は全体の14.0%（前期34.9%）と20.9ポイント減少し、「減少・悪化」の回答は全体の60.4%（前期41.8%）と18.6ポイント増加した。

その結果、売上額D Iは△46.4（前期△6.9）と前期比39.5ポイント悪化した。

図3-2 売上額の状況
(前年同期比)

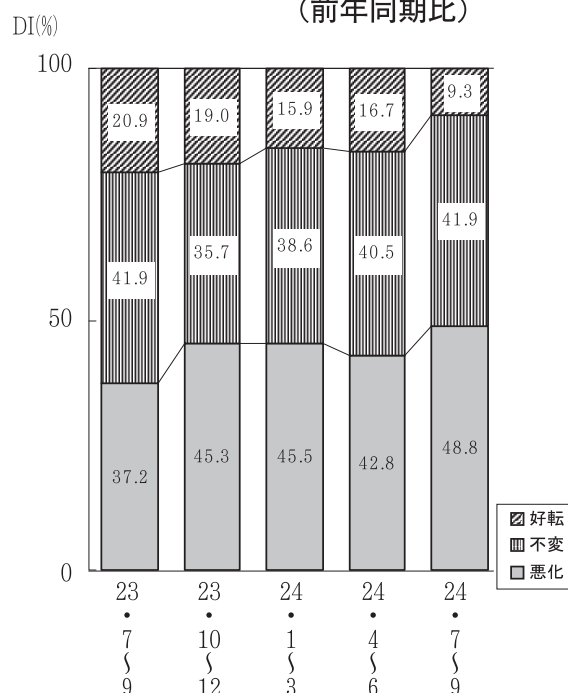


(b) 採 算

「上昇・好転」と回答した企業は全体の9.3%（前期16.7%）と7.4ポイント減少し、「悪化・低下」の回答も全体の48.8%（前期42.8%）で6.0ポイント増加した。

その結果、採算DIは、△39.5（前期△26.1）となり、前期比13.4ポイント悪化した。

図3-3 採算の状況
（前年同期比）



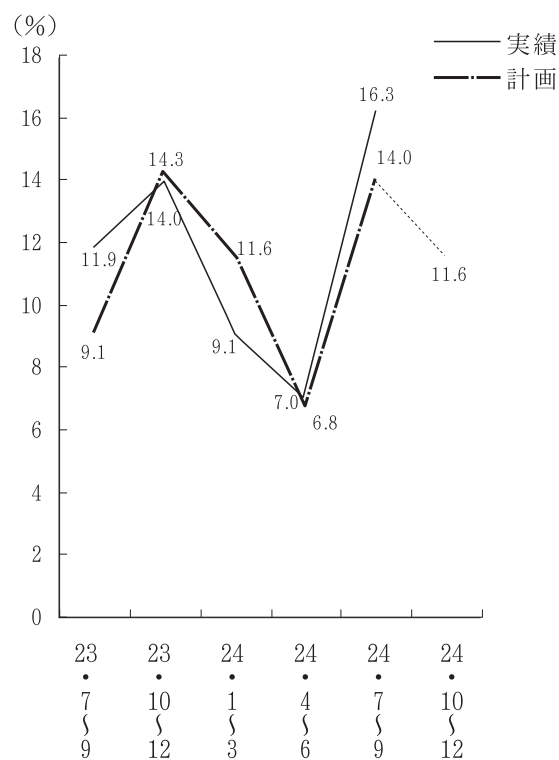
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施企業割合は、全体の16.3%（前期7.0%）で、9.3ポイント増加した。

その設備内容は店舗、車両・運搬具、付帯施設、その他であった。

来期に設備計画している企業は11.6%で、その内容は店舗、販売設備、OA機器、その他を想定している。

図3-4 設備投資の状況

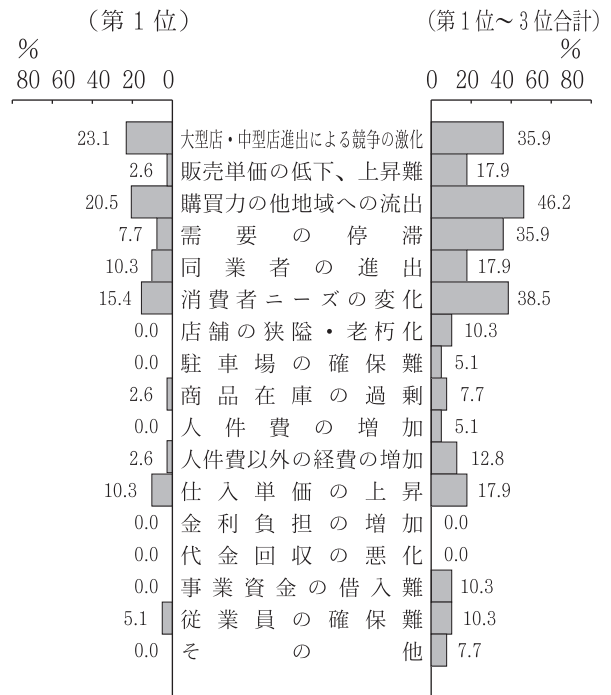


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「大型店・中型店の進出による競争の激化」(23.1%)、次いで「購買力の他地域への流出」(20.5%)、「消費者ニーズの変化」(15.4%)と続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「購買力の他地域への流出」(46.2%(複数回答以下同じ))次いで、「消費者ニーズの変化」(38.5%)そして「大型店・中型店の進出による競争の激化」と「需要の停滞」が35.9%と同率で続いた。

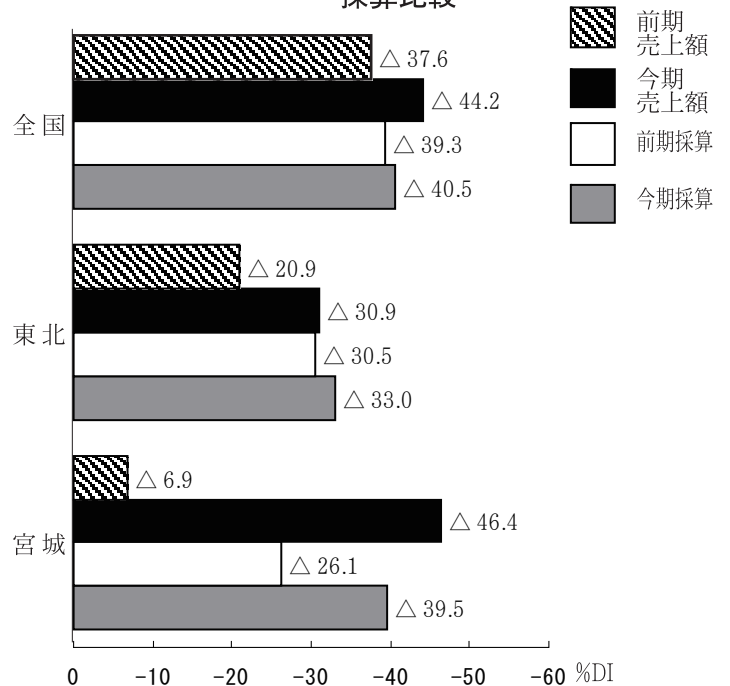
図3-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

好調さを示していた宮城が売上DI・採算DIともに悪化させ、本県回答事業所から「本年度前期と比較し客単価は不変だが客数が減少している。震災から一年以上が過ぎ、生活面で慎重な買物をしているように感じる」(靴専門店)、「原発の風評があり、当店は海産物を販売しており、これから海産物への放射能の被害が出ないか心配だ」(食料品小売)、「震災後の店舗不足が落ち着き、チェーン店やコンビニが新規開店したため消費者がそちらへ流れていってしまう」(各種食料品小売)などのコメントが寄せられた。

図3-6 全国東北宮城売上額・採算比較



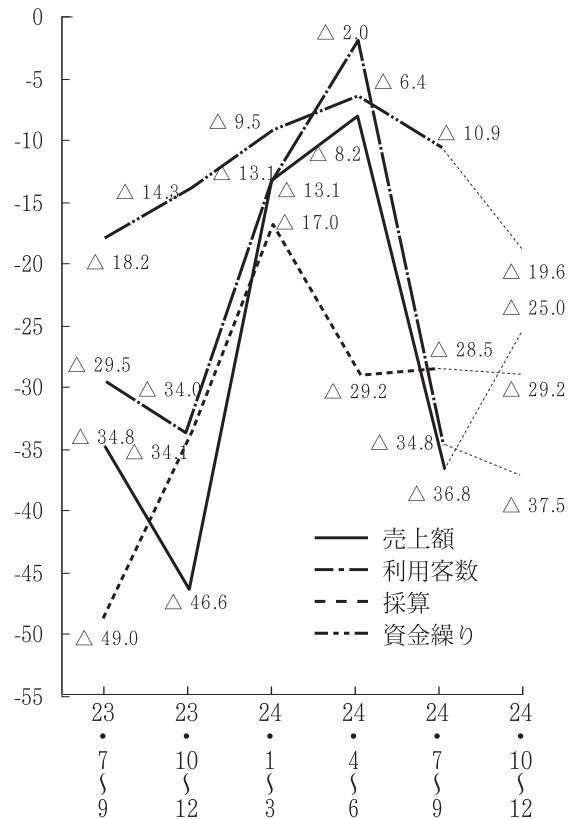
(4) サービス業の動向

①主要景況項目から見たあらまし

売上（収入）額D Iは△36.8（前期△8.2）で28.6ポイント、利用客数D Iは△34.8（前期△2.0）で32.8ポイント、資金繰りD Iも△10.9(前期△6.4)と4.5ポイント悪化した。

ただし、採算D Iは△28.5（前期△29.2）と0.7ポイント改善した。

図4-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



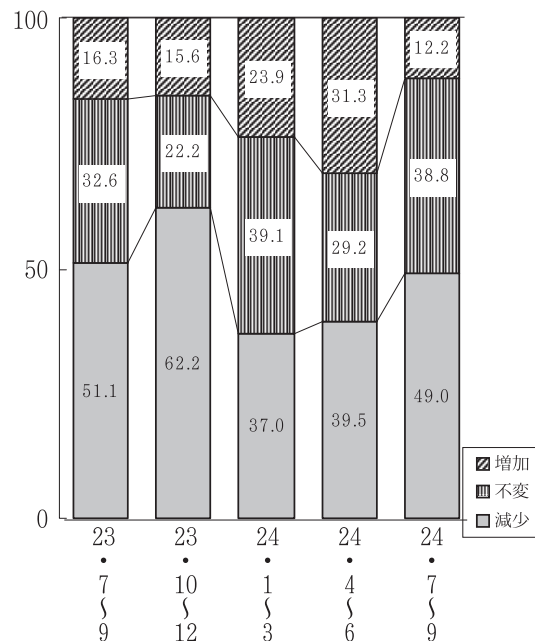
② 主要景況項目別状況

(a) 売上（収入）額

「上昇・好転」と回答した企業は全体の12.2%(前期31.3%)で19.1ポイント減少し、「減少・悪化」の回答は49.0%(前期39.5%)で、9.5ポイント増加した。

その結果、売上（収入）額D Iは△36.8(前期△8.2)で前期比28.6ポイント悪化した。

図4-2 売上（収入）額の状況
(前年同期比)

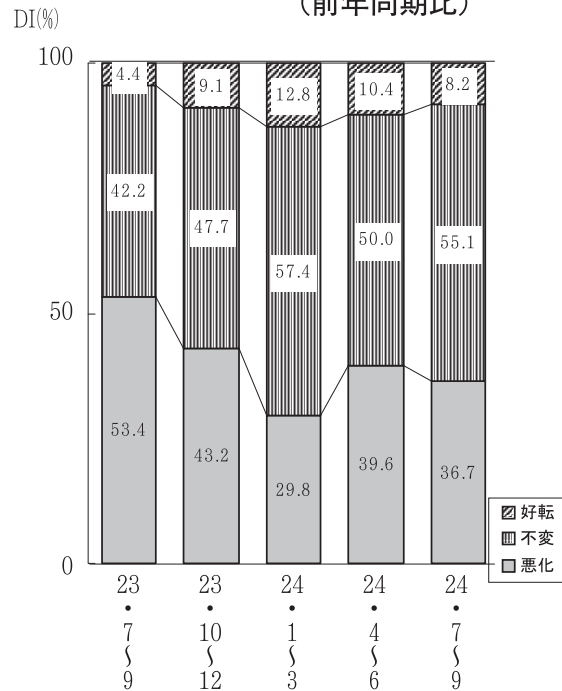


(b) 採 算

「好転・上昇」と回答した企業は全体の8.2%(前期10.4%)で2.2ポイント減少し、「低下・悪化」と回答した企業は36.7%(前期39.6%)と2.9ポイント減少した。

その結果、採算D Iは△28.5(前期△29.2)となり、前期比0.7ポイント改善した。

図4-3 採算の状況
(前年同期比)



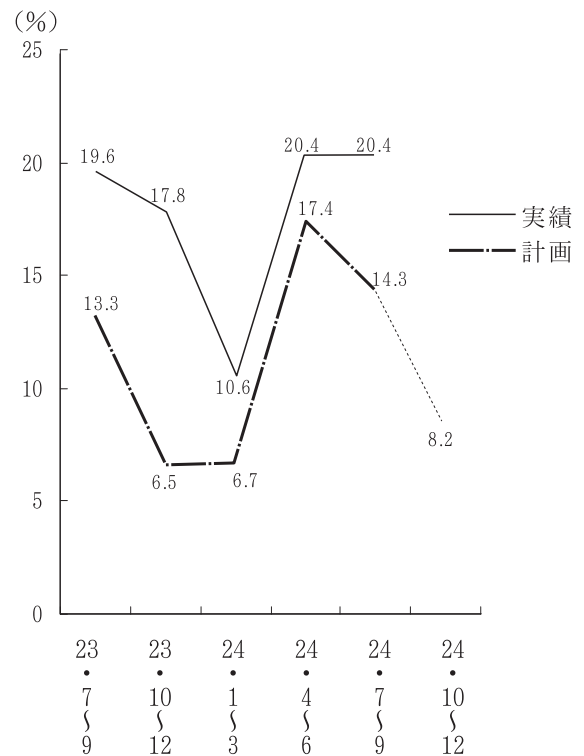
(c) 設 備 投 資

今期、新規投資を実施した企業は、全体の20.4%で前期と同率であった。

その設備内容は建物、サービス、車両・運搬具、付帯施設、OA機器、その他であった。

来期に設備計画している企業割合は、8.2%であり、その内容は建物、サービス、車両・運搬具、OA機器となっている。

図4-4 設備投資の状況

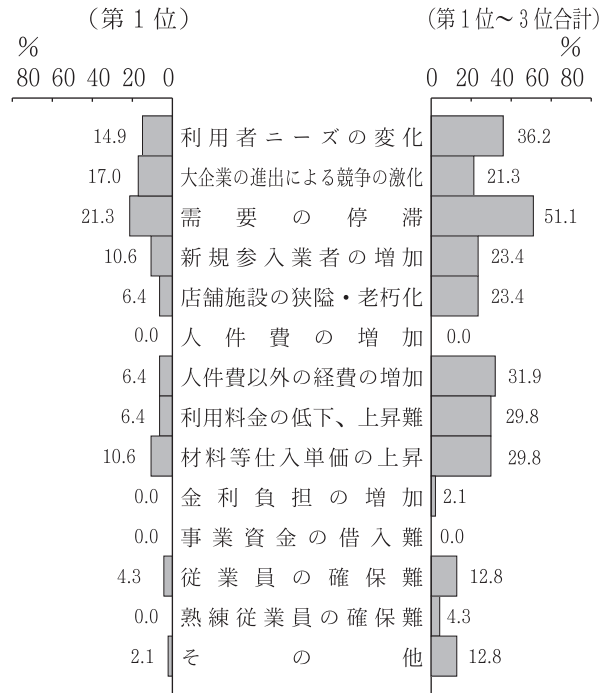


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「需要の停滞」(21.3%)
次いで「大企業の進出による競争の激化」
(17.0%)、「利用者ニーズの変化」(14.9%)、
「材料仕入単価の上昇」と「新規参入業者
の増加」が10.6%と同率で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「需要
の停滞」(51.1%(複数回答以下同じ))次い
で、「利用者ニーズの変化」(36.2%)、「人
件費以外の経費の増加」(31.9%)、「材料等
仕入単価の上昇」と「利用料金の低下、上
昇難」が29.8%と同率で続いた。

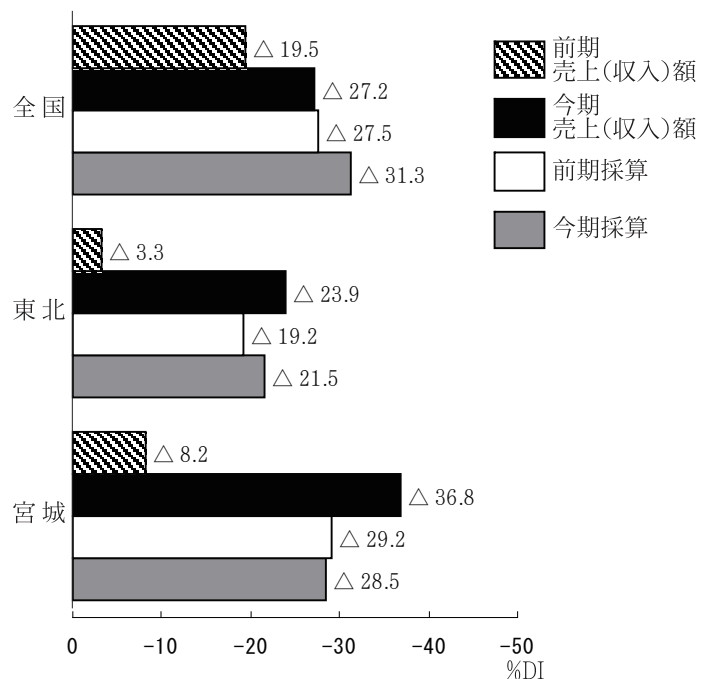
図4-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

全体に売上DIが悪化し、特に宮城の変動幅が大きかった。本県回答事業所からは「昨年は震災のためにお客様が入ってきたが、通常の売上に戻った」(飲食業)、「震災の視察等の関係で利用されるニーズが多かったが、時間の経過とともに減少し今後の利益低下が懸念される」(旅客運送業)、「復興関連の宿泊が減少傾向にあり、今後は地元企業の動向に注視したい」(宿泊業)等のコメントが寄せられた。

図4-6 全国東北宮城売上(収入)額・採算比較





古紙配合率70%再生紙を使用しています